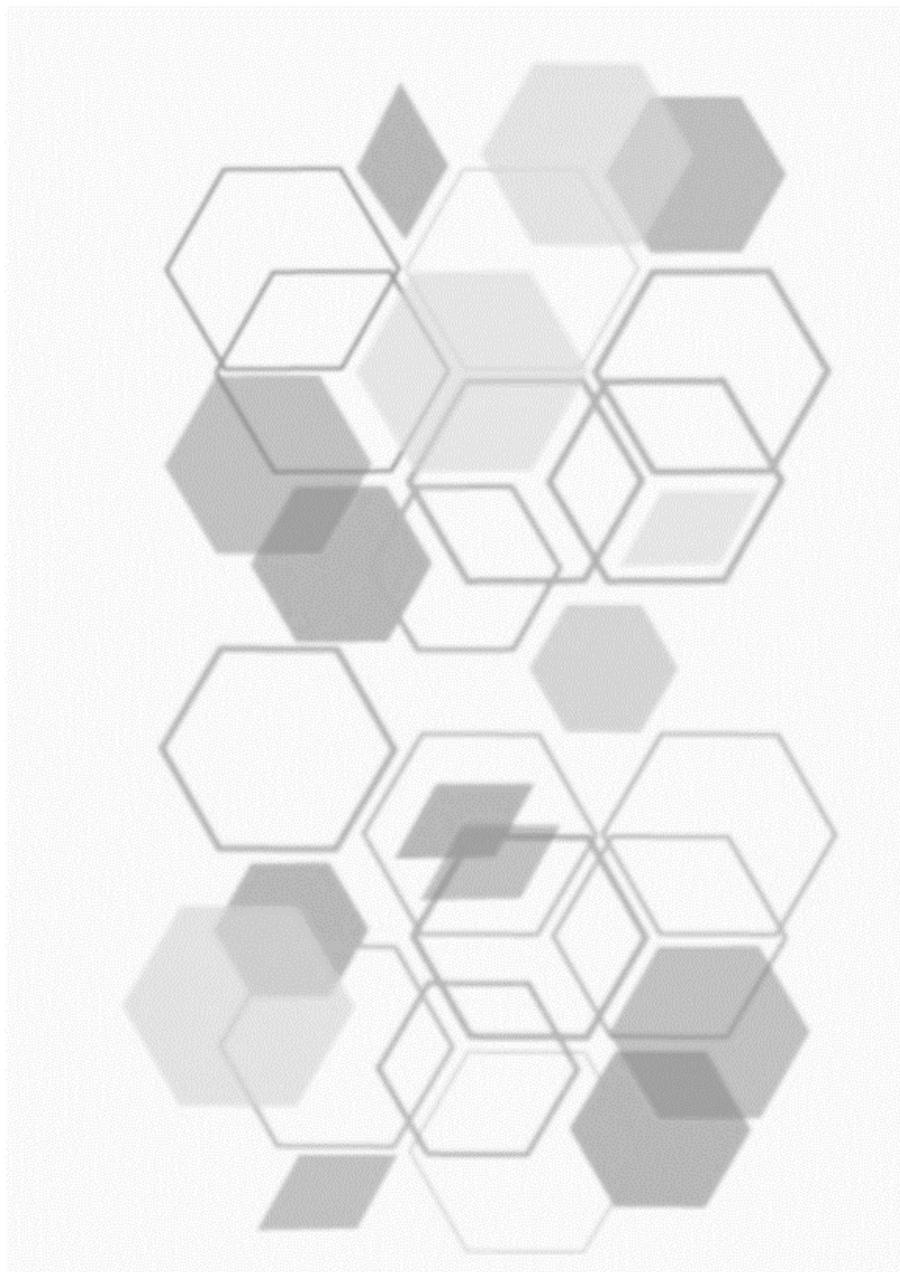


学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究

生徒の主体的な学習を通して思考力、判断力、表現力等を育成する指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究

【資料】



和歌山県立有田中央高等学校 総合学科福祉系列

介護総合演習の指導と評価の計画

■「指導と評価の一体化」に向けて

「介護総合演習」は、介護実習の事前学習・事後学習であり、介護実習を有意義なものとするための科目であるため、指導と評価の一体化によって学習目標を達成することが「介護実習」の目標を達成することに繋がると考える。「介護総合演習」の学習評価を通して指導の改善を図り、学習目標を達成しながら次の学習に向かうことができるようにするための指導と評価の計画を作成した。

■観点別評価について

観点別学習状況の評価については、新学習指導要領から、教育目標や内容の再整理を踏まえて4観点から3観点到整理され、以前よりも生徒が身に付けている力を分類しやすくなった。

■「介護総合演習」における観点別評価の内容について

①「知識・技術」の評価は、介護総合演習のねらいと学習内容の理解、介護実習の場の理解、多職種協働の理解、ICFと介護過程の理解等に関する知識及び技術の習得状況、また、それらが「介護実習」において活用できる知識であるかを評価している。「知識・技術」の評価に当たっては、「介護実習」に必要な基礎的な知識を身に付けている状況を確認できるように、確認テスト及びワークシートの記述による評価を行う。

②「思考・判断・表現」の評価は、既習の知識及び技能を活用し思考・判断したことについて、言語活動による表現と合わせて評価する観点として設定している。この観点の評価については、実習目標の設定、個人票作成、レクリエーション計画の立案、お礼状作成、介護実習の自己評価、介護実習の振り返り、介護実習報告会の準備や発表、報告会のまとめ等のように「主体的・対話的で深い学び」として生徒が「思考・判断・表現」する場面を設定し、観点到適している課題を提供する。「思考・判断・表現」の具体的な評価の方法としては、ワークシートの記述、レポートの作成、発表、グループでの話し合い等がある。

③「学びに向かう力、人間性等」には、「主体的に学習に取り組む態度」と、評価や評定にはなじまないため個人内評価を通じて見取る部分がある。この観点の評価に際しては、性格や行動面の傾向を評価するということではなく、「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点到の趣旨に照らして行う必要がある。施設に関する情報、施設と地域のつながり、介護実習の目標や実習の展開、レクリエーション、感染予防の留意点、介護実習の留意点、介護実習記録、介護実習目標、報告書作成等の考察やまとめに関して自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤する等、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかを評価する。

自らの学習を全く調整しようとせずに粘り強く取り組んでいる、つまり、創意工夫がないまま頑張っているような状況においては、学習の進め方についての支援が必要となる。

学習の調整に当たっては、話し合いや他の生徒と協働することで自分の考えを相対化できるような場面、例えば「自らの理解の振り返り」「自らの考えの記述（発表）」「他者との対話を通じた自らの考えの深まり」等の場面を設定し、観察や記述から「主体的に学習に取り組む態度」を評価している。

評価の方法としては、レポート等における記述、教師による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を材料として用いる。

■評価規準の作成について

(1) 介護演習及び(2)事例研究において「評価規準」を作成する。学習指導要領のねらいの「理解する」を「理解している」、「身に付けるようにする」を「身に付けている」とする。このように、目標の文章の語尾を書き換えて評価の観点の趣旨を作成する。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
介護演習	介護実習が適切かつ総合的に展開できるよう、 介護実習の意義や目的などについて理解 するとともに、関連する技術を身に付けている。	介護実習を通して、個人情報保護やリスクマネジメントなどについて 課題を発見 し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて 創造的に解決 している。	地域での継続した生活を支援する介護実習について自ら学び、 主体的かつ協働的に 取り組もうとしている。
事例研究	事例研究を通して サービス利用者の心理や生活状態などについて理解 するとともに、関連する技術を身に付けている。	介護実習や福祉活動などから得た体験についての 課題を発見 し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて 創造的に解決 している。	介護実習や福祉活動などから得た体験について自ら学び、事例研究に 主体的かつ協働的に 取り組もうとしている。

評価については、ルーブリックを活用したパフォーマンス評価となるが、生徒の発言や記述のどの部分を評価するのかについて記述し、Aの基準を設定し、それがおおむねできている状況をBと判断している。

■介護総合演習について

本校では、2年生の4月から6月の「介護総合演習」(2単位)において事前学習を行い、7月から「介護実習Ⅰ」になる。9月からの「介護総合演習」では、事後学習を行う。

3年生では、4月から6月の「介護総合演習」(1単位)において事前学習を行い、7月から「介護実習Ⅱ」になる。9月からの「介護総合演習」(では、事後学習を行う。

■指導と評価の計画

2学年(63時間)

- 1 介護総合演習の概要…………… 1時間
 - (1) 介護総合演習とは・介護総合演習の内容・年間計画…………… (1時間)
- 2 介護実習Ⅰの理解…………… 8時間
 - (1) 介護実習とは・介護実習と介護福祉士資格取得時の到達目標…………… (1時間)
 - (2) 介護実習の概要・介護実習の場の理解…………… (2時間)
 - (3) 多職種協働の理解・地域とのつながりの理解…………… (3時間)
 - (4) 介護実習Ⅰの目標及び実習の展開…………… (1時間)
 - (5) カンファレンスについて…………… (1時間)
- 3 介護実習Ⅰの事前学習…………… 9時間
 - (1) 生徒個人票作成…………… (1時間)
 - (2) 生活支援技術の手順と留意点…………… (1時間)
 - (3) レクリエーションの意義と留意点…………… (4時間)
 - (4) 感染症について…………… (2時間)
 - (5) 介護実習に必要な漢字…………… (1時間)

4 介護実習の留意点	2時間
(1) 実習生としての態度・実習施設への交通・服装・身だしなみ 健康管理・事故等の対応・実習の欠席や警報発令時の対応	(2時間)
5 介護実習記録	4時間
(1) 目的と意義・心得・書き方と取り扱い	(2時間)
(2) 介護実習目標の立て方	(2時間)
6 介護実習壮行会	3時間
(1) 介護実習壮行会	(3時間)
7 介護実習Ⅰの事後学習	33時間
(1) お礼状の作成	(2時間)
(2) 介護実習の自己評価	(2時間)
(3) 介護実習Ⅰのまとめ	(5時間)
(4) 介護実習Ⅰ報告書作成・報告会準備	(20時間)
(5) 介護実習報告会・報告会のまとめ	(4時間)
8 介護実習Ⅱの理解	3時間
(1) 介護実習Ⅱの目標及び実習内容	(2時間)
(2) 介護実習の場の理解	(1時間)
3学年 (32時間)	
1 介護実習Ⅱの事前学習	6時間
(1) 生徒個人票作成	(1時間)
(2) 介護過程について	(5時間)
2 介護実習の留意点	1時間
(1) 実習生としての態度・実習施設への交通・服装・身だしなみ 健康管理・事故等の対応・実習の欠席や警報発令時の対応	(1時間)
3 介護実習記録	2時間
(1) 目的と意義・心得・書き方と取り扱い	(2時間)
4 介護実習壮行会	3時間
(1) 介護実習壮行会	(3時間)
5 介護実習Ⅱの事後学習	20時間
(1) お礼状の作成	(2時間)
(2) 介護実習の自己評価	(1時間)
(3) 介護実習Ⅱのまとめ	(3時間)
(4) 介護実習Ⅱ報告書作成・報告会準備	(10時間)
(5) 介護実習報告会・報告会のまとめ	(4時間)

1 介護総合演習の概要

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) 介護総合演習とは・介護総合演習の内容・年間計画		
1	・介護総合演習のねらいと学習内容について理解したことをガイドブックにまとめる。	知識・技術 ・介護総合演習のねらいと学習内容を理解している。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント 介護総合演習のねらいは、「 介護実習の事前・事後学習であること 」、内容は、「 介護実習に必要な知識等を再確認する 」等、具体的にガイドブックに記述している。		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護総合演習のねらいと学習内容の理解が十分でない場合であり、個別に説明を行う。

2 介護実習Ⅰの理解

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) 介護実習とは・介護実習と介護福祉士資格取得時の到達目標		
2	・介護福祉士養成の到達目標から、介護実習の目標を考察し、ガイドブックに記述する。	思考・判断・表現 ・介護福祉士養成の到達目標の内容をふまえた介護実習の目標を具体的に考察し、根拠に基づき解決している。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント 介護福祉士養成の到達目標を理解し、自分が選択した項目について、「 利用者に応じた話題を提供する 」等の 具体的な介護実習の目標 を記述している。		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護福祉士養成の到達目標から具体的な介護実習の目標が考察ができていない場合であり、介護福祉士養成の到達目標の内容を説明し、介護実習でどのようなことを行うか考えるよう助言する。
(2) 介護実習の概要・介護実習の場の理解		
3	・介護実習が行われる様々な施設の概要を理解し、確認テストに解答する。	知識・技術 ・実習施設の概要について理解している。〔確認テストの解答〕
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント ・確認テストに100%正解する。		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て 正解が70%以下。このような状況は施設の概要の理解が十分でない場合であり、学習の機会を設けて、再テストを行う。
4	・実習施設の情報を調べて記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・実習施設の情報収集とまとめに主体的に取り組んでいる。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント 実習施設についてパンフレットやインターネットの情報等を調べ、「 理念 」「 入所者の状況 」「 職員構成 」等について 適切に整理して まとめている。		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て このような状況は、実習施設について調べた内容が十分でなかったり、工夫したまとめができていない場合であり、必要な情報を確認させ、分かりやすくまとめている他の生徒の記述を参考にするよう促す。

(3) 多職種協働の理解・地域とのつながりの理解		
5	・介護実習で協働する多職種の業務について理解し、確認テストに解答する。	知識・技術 ・介護実習で協働する多職種の業務について理解している。〔確認テスト〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 確認テストに 100% 正解する。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て 正解が 70% 以下。このような状況は多職種の業務の理解が十分でない場合であり、学習の機会を設けて再テストを行う。
6 7	・施設と地域の連携の具体例を調べて記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・施設と地域の連携の具体例を調べてまとめることに主体的に取り組もうとしている。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 施設と地域の連携に関する 適切な例 を調べ、 分かりやすく 記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、施設と地域の連携として調べた内容が適切でない判断できる場合であり、施設のパンフレットやインターネット等を活用して調べさせる。
(4) 介護実習 I の目標及び実習の展開		
8	・介護実習 I の目標と実習の展開について理解し、目標達成のための具体的な行動についてまとめる。	知識・技術 ・介護実習 I の実習施設ごとの目標や実習の展開をよく理解し、具体的な行動を記載している。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 介護実習 I の目標及び実習の展開を十分に理解し、「 目標を達成するために行うこと 」について、 各施設種別ごとに具体的に 記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護実習 I の目標及び実習の展開の理解や具体的な検討が十分でない判断できる場合であり、必要に応じて実習目標の内容や実習施設ごとの展開の内容を再度確認し、個別に説明する。
(5) カンファレンスについて		
9	・カンファレンスの意義とカンファレンスに向けた取り組みについて理解し、記述する。	知識・技術 ・カンファレンスの意義とカンファレンスに向けた取り組みについて理解している。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント カンファレンスの意義とカンファレンスに向けた取り組みについて「 介護実習の学びの整理 」「 指導・助言をもらう 」「 自分の取り組み 」「 成果と課題 」等の表現で記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、カンファレンスの意義とカンファレンスに向けた取り組みについての理解が十分でない判断できる場合であり、カンファレンスについて個別に説明する。

3 介護実習 I の事前学習

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) 実習生個人票作成		
10	・自己紹介や介護実習の抱負を記述する。	思考・判断・表現 ・実習生の自己紹介や介護実習の抱負について考察し、根拠に基づき記述している。〔個人票〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 自己紹介や介護実習の抱負が整理され、 生活支援技術やコミュニケーション技術の習得に向けた抱負 を記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、個人票に記述している実習生の自己紹介や介護実習の抱負が適切でないと判断できる場合であり、項目を確認しながら個別に助言する。
(2) 生活支援技術の手順と留意点		
11	・生活支援技術の留意点や手順について記述する。	思考・判断・表現 ・介護実習に必要な生活支援技術について考察し、根拠に基づきまとめている。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 介護実習に必要な生活支援技術を選択し、その留意点や手順について調べ、 介護実習で必要な内容について 分かりやすく記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、生活支援技術の留意点や手順について、介護実習に必要な内容を適切に選択できていない場合であり、一つの項目を例に挙げて記述方法を説明する。
(3) レクリエーションの意義と留意点		
12 13	・利用者のQOLの向上と感染予防に配慮したレクリエーション計画を作成する。	思考・判断・表現 ・QOLの向上につながるレクリエーションの在り方について考察し、根拠に基づき適切なレクリエーション計画を立案している。〔レクリエーション計画書〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 利用者のQOLの向上に留意し、感染予防を踏まえ、レクリエーションの計画書のすべての項目について、 具体的な計画について考察して 記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、レクリエーション計画の内容が対象者に合っていなかったり、現実性がなかったり、感染予防に配慮していない場合であり、レクリエーションの対象者の状況や実施した結果を想定しながら、個別に支援する。
14 15	・レクリエーション材の作成と演習を行い、成果と課題を記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・レクリエーション材の作成、演習及びまとめに主体的に取り組もうとしている。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント レクリエーション材の作成と演習を行い、その成果と課題について「 利用者への配慮ができていた部分 」や「 工夫を加えるとより利用者が楽しめる 」等、 多面的・多角的に考察して 記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、レクリエーション材の作成や発表が十分でなかったり、考察が深まっていない場合であり、どの部分に課題があるかを個別に支援する。

(4) 感染症について	
16	<p>・主な感染症の知識を身に付け、確認テストに解答する。</p> <p>知識・技術 ・主な感染症の知識を身に付けている。〔確認テスト〕</p>
<p>「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント</p> <p>確認テストに 100% 正解する。</p>	
<p>「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て</p> <p>正解が 70% 以下。このような状況は感染症についての理解が十分でない場合であり、学習の機会を設けたうえで再テストを行う。</p>	
17	<p>・介護実習において感染予防のために留意することをまとめる。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習における感染予防に関心を持ち、その留意点をまとめようとしている。〔ガイドブック〕</p>
<p>「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント</p> <p>介護実習における感染症予防の留意点について理解し、「健康管理」「健康確認」「物品の取り扱い」「生活支援の場面での留意点」等介護実習で取り組む感染予防について記述している。</p>	
<p>「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て</p> <p>このような状況は、介護実習における感染症予防の留意点の理解が十分でないことや、感染予防の知識が介護実習と関連づけて考察できていない場合であり、各感染症の概要及びその対応や介護実習での行動を確認しながら、まとめを行うよう促す。</p>	
(5) 介護実習に必要な漢字について	
18	<p>・介護実習記録に必要な漢字を調べ記述する。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習記録に必要な漢字の知識を身に付けることに意欲的に取り組んでいる。〔ガイドブック〕</p>
<p>「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント</p> <p>介護実習記録に必要な漢字を辞書等を使って調べ、すべての漢字を適切に記述している。</p>	
<p>「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て</p> <p>このような状況は、記述できていない漢字がある場合であり、調べる手立て等を個別に支援する。</p>	

4 介護実習の留意点

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) 実習生としての態度・服装・身だしなみ・健康管理・事故等の対応・実習の欠席や警報発令時の対応		
19 ・ 20	<p>・介護実習のきまりや実習生としての態度、介護実習での様々な状況への対応について理解し、まとめる。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習の留意点に関心を持ち、介護実習での学びがよりよいものになるよう調整している。〔ガイドブック〕</p>
<p>「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント</p> <p>介護実習のきまりや実習生としての態度、介護実習での様々な状況への対応の理解に主体的に取り組む、全ての項目を網羅して適切に記述している。</p>		<p>「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て</p> <p>このような状況は、介護実習のきまりや実習生としての態度、介護実習での様々な状況への対応について理解が十分でない場合や、適切なまとめができていない場合であり、まとめる内容を個別に支援する。</p>

5 介護実習記録

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) 目的と意義・心得・書き方と取り扱い		
21 ・	介護実習記録の目的や書き方の留意点について理解し、事例について記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習記録に関心を持ち、それぞれの項目に適切に記述することに意欲的に取り組もうとしている。〔ガイドブック〕
22		
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント 介護実習記録の 書き方の留意点 を理解し、 適切な表現 で記述することに意欲的に取り組んでいる。		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護実習記録の書き方の理解が十分でない場合や、適切な表現ができていない場合であり、個別に説明する。
(2) 介護実習目標の立て方		
23 ・	介護実習目標の立て方について理解し、生活支援技術に関連した目的と方法をグループで話し合い、ガイドブックに記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習目標に関心を持ち、生活支援技術に関連した目的と方法の考察に粘り強く取り組もうとしている。〔ガイドブック〕
24		
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント 介護実習目標の立て方について理解し、生活支援技術に関連した目的と方法について、 お互いに自分の意見持って伝え合う等、グループで協力し、具体的な内容 を記述している。		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護実習目標の立て方についての理解が十分でない場合や、活発な話し合いができていない場合であり、グループの話し合いを支援する。

6 介護実習壮行会

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) 介護実習壮行会		
25	・介護実習の目標や抱負について記述する。	思考・判断・表現 ・介護実習の目標や抱負について考察し、根拠に基づき記述している。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント 介護実習の目標や抱負を「 コミュニケーション 」や「 生活支援技術 」、又は 実習の態度等について具体的に考察し、適切に表現 できている。		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て 介護実習壮行会に向けて、適切な介護実習の目標や抱負を書けていない場合であり、具体例を示しながら適切な表現を考えさせる。
26 ・	・壮行会で学んだ内容を記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習壮行会で発表する内容の作成や壮行会のまとめを主体的に取り組もうとしている。〔ガイドブック〕
27		
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント 壮行会の 準備 に主体的に取り組む、壮行会での学びについて、「 参考になった発表 」や「 気づいたこと 」等について記述している。		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護実習壮行会の準備が十分でない場合や、適切なまとめが書けていない場合であり、個別に支援する。

7 介護実習 I の事後学習

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) お礼状の作成		
28 ・ 29	・介護実習のお礼状を作成する。	思考・判断・表現 ・介護実習での学びを考察し、根拠に基づき作成している。〔お礼状〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント お礼状に「 介護実習を通して身に着いたことや考えたこと 」「 指導を通して学んだこと 」等について 具体的なエピソードが適切な表現 で記載している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、お礼状の内容が具体的な場合であり、実習で学んだ内容を基に記述するよう支援する。
(2) 介護実習 I の自己評価		
30 ・ 31	・介護実習 I での学びを振り返り、実習目標に対する達成度を記述する。	思考・判断・表現 ・実習目標に対する達成度を自己評価し、根拠に基づき記述している。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 介護実習 I の学びを振り返り、実習目標に対して「 努力したことやできたこと 」「 十分でなかったこと 」等について 具体的な根拠と合わせて 自己評価を行い、適切に記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護実習 I の実習目標に対する達成度を具体的な根拠に基づいて評価できていない場合であり、項目に従って実習記録を読み返しながらか確認するよう支援する。
(3) 介護実習 I のまとめ		
32 ・ 36	・介護実習 I において学んだ内容を振り返り、項目に従って記述する。	知識・技術 ・介護実習 I での学びに関する知識を身に付けている。〔まとめ〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 介護実習 I の実習記録等からまとめを行い、教科書等を活用し、「 生活支援技術 」や「 コミュニケーション技術 」に関する 具体的な根拠と合わせて 記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て 介護実習の状況を確認しながら、具体的な根拠のあるまとめができるよう、教科書等を活用し、個別に支援する。
32 ・ 36	・介護実習 I において学んだ内容を振り返り、項目に従って記述する。	思考・判断・表現 ・介護実習 I の学びを振り返り、項目に従って考察し、根拠に基づき記述している。〔まとめ〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 介護実習 I の実習記録等から介護実習の学びを振り返り、項目に従って考察を深め、「 生活支援技術 」や「 コミュニケーション技術 」に関する 具体的な課題と成果 について記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護実習 I の学びを、項目に従って実習記録を読み返しながらか確認するよう個別に支援する。
32 ・ 36	・介護実習 I のまとめについて振り返って記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習 I のまとめの作成について振り返りをしようとしている。〔ワークシート〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 振り返りのワークシートに取り組み、適切に記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、学んだことについて振り返りが記載できていない場合であり、振り返りができるよう支援する。

(4) 介護実習 I 報告書作成		
36 47	・介護実習 I の学びからテーマを決め、利用者の状況や実施した生活支援技術、また、関連して調べた内容や考察を記述する。	知識・技術 ・生活支援技術の根拠を理解している。〔報告書〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 自分のテーマに従い、 生活支援技術の手順や留意点 を振り返り、 根拠に基づいて まとめている。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、生活支援技術の根拠について参考資料を確認するよう個別に支援する。
36 47	・介護実習 I の学びからテーマを決め、利用者の状況や実施した生活支援技術、また、関連して調べた内容や考察を記述する。	思考・判断・表現 ・自分のテーマに関連した、利用者の状況や生活支援技術について考察し、根拠に基づき記述している。〔報告書〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 自分のテーマに関連した、利用者の状況や生活支援技術について、 介護実習で指導を受けた内容とテキスト等で調べた内容を関連づけて 考察し、適切に記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、報告書の記述内容が十分に考察できていない場合であり、介護実習 I のまとめや介護実習記録を読み返して内容を検討するよう支援する。
36 47	・報告書作成について、振り返りのワークシートに記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・報告書の作成について振り返りをしようとしている。〔ワークシート〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 振り返りのワークシートに取り組み、適切に記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、学んだことについて振り返りができていない場合であり、振り返りの内容が記述ができるよう支援する。
(4) 介護実習 I 報告会準備		
48 55	・介護実習 I 報告会の発表に向けて模造紙やスライドを作成する。	知識・技術 ・介護実習 I 報告会の発表用の資料に関する知識を身に付けている。〔スライド等〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 報告内容について、 視覚的に分かりやすい資料 を工夫して作成している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、視覚的に分かりやすい資料ができていない場合であり、模造紙へのまとめやスライド作成の基本的な留意点を確認する。
48 55	・介護実習 I 報告会の発表に向けて発表原稿を作成する。	思考・判断・表現 ・介護実習 I 報告会の発表原稿について考察し、根拠に基づき作成している。〔発表原稿〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 利用者の状況や生活支援技術について、 報告書から発表内容を考察 し、適切に発表原稿を作成している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、発表原稿が十分にできていないと判断できる場合であり、助言しながら再度取り組むよう支援する。
48 55	・報告会の準備について振り返って記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・報告会の準備について振り返りをしようとしている。〔ワークシート〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 振り返りのワークシートに取り組み、適切に記述している。		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、報告会の準備について振り返りができていない場合であり、個別に支援する。

(5) 介護実習報告会	
56 ・参加者が理解しやすいよう留意しながら発表する。	主体的に学習に取り組む態度 ・適切な態度で発表を行おうとしている。〔観察〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 発表原稿を活用し、適切な態度で発表を行う。	「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、発表が丁寧に行えていない場合であり、振り返りを行い助言する。
56 ・集中して発表を聴き、生活支援技術等についてコメントを記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・他の生徒の発表を熱心に聞き、学んだことや評価を適切にまとめようとしている。〔ワークシート〕
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 他の生徒の発表を聞き、評価を適切に行い、分かったことや学んだことについて 具体的な内容 を記述している。	「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 他の生徒の発表を聞き、評価を適切に行い、よかったことやアドバイス等について 具体的な内容 を記述している。
(5) 報告会のまとめ	
58 ・発表についてのコメントを整理し、介護実習及び介護実習報告会の成果と課題について記述する。	思考・判断・表現 ・参加者のコメントから、介護実習及び介護実習報告会の成果と課題を考察し、根拠に基づき記述している。〔ワークシート〕
60 参加者のコメントを適切にまとめ、その内容から介護実習及び介護実習報告会の 成果と課題を具体的に考察 し、適切に記述している。	「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、報告会のコメントを適切に活用できてなかったり、考察ができていない場合であり、コメントの内容を確認しながら助言する。

8 介護実習Ⅱの理解

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) 介護実習Ⅱの目標及び実習内容		
61 ・介護実習Ⅱの目標と実習の展開について理解した内容を記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習Ⅱの目標や実習の展開についてのまとめに主体的に取り組もうとしている。〔ガイドブック〕	
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 介護実習Ⅱの目標及び実習の展開をよく理解し、 介護過程の展開を通して自分が行うことや学ぶこと を具体的に記述している。	「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護実習Ⅱの目標及び展開が理解できていないことや、自分が行うことの考察が十分でないことが、記述から判断できる場合であり、必要に応じて実習目標の内容や実習施設ごとの展開の内容を再度確認する。	
(2) 介護実習の概要・介護実習の場の理解		
63 ・実習を行う施設の情報を調べて記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・実習を行う施設の情報収集と分かりやすいまとめに主体的に取り組もうとしている。〔ガイドブック〕	
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント 自分が実習を行う施設について パンフレットやインターネットの情報 等を調べ、適切な内容を 項目を整理して 記述している。	「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、実習施設について調べた内容を記述しているが、まとめ方の工夫ができていない場合であり、介護実習に必要な施設の情報を確認させ、分かりやすくまとめている他の生徒の記述を参考にするよう促す。	

※評価について

学期末に各観点の到達度を 100 点満点で示す。

基準 70 以上 100 以下・・・A 35 以上 70 未満・・・B 0 以上 35 未満・・・C

評定 80 以上 100 以下・・・5 60 以上 80 未満・・・4 40 以上 60 未満・・・3 30 以上 40 未満・・・2 30 未満・・・1

1 学期

	1(1)	2(1)	2(2)	2(3)	2(4)	2(5)	3(1)	3(2)	3(3)	3(4)	3(5)	4(1)	5(1)	5(2)	学期末達成状況	学期末観点	評点	評定
	介護総合演習とは	介護実習とは	介護実習の場の理解	多職種協働・地域	介護実習Ⅰの目標及展開	カンファレンス	実習生個人票	生活支援技術	レクリエーション	感染症について	介護実習に必要な漢字	実習生としての態度等	介護実習記録の目的と意義	介護実習目標の立て方				
知・技	6/10		21/25	15/20	7/10	8/10				20/25					77/100	A	74	4
思・判・表		12/20					14/20	13/20	14/20					15/20	68/100	B		
主体態度			8/10	7/10					16/20	15/20	15/20	8/10	8/10	77/100	A			

2 学期

	6(1)	7(1)	7(2)	7(3)	7(4)	学期末達成状況	学期末観点	評点	評定
	介護実習壮行会	お礼状の作成	自己評価	介護実習まとめ	報告書作成				
知・技				30/50	40/50	70/100	A	72	4
思・判・表	6/10	8/10	14/20	26/30	18/30	72/100	A		
主体態度	8/10			32/40	35/50	75/100	A		

3 学期

	7(4)	7(5)	7(5)	8(1)	8(2)	学期末達成状況	学期末観点	評点	評定
	報告会準備	介護実習報告会	報告会のまとめ	介護実習Ⅱの目標及展開	介護実習の場の理解				
知・技	20/30	23/30	15/30	7/10		65/100	B	66	4
思・判・表	19/30	24/40	27/30			70/100	A		
主体態度	15/30	20/30	21/30		8/10	64/100	B		

学年末

	1 学期		2 学期		3 学期		学年末	
	達成状況	観点	達成状況	観点	達成状況	観点	達成状況	観点
知・技	77/100	A	70/100	A	65/100	B	71/100	A
思・判・表	68/100	B	72/100	A	70/100	A	70/100	A
主体態度	77/100	A	75/100	A	64/100	B	72/100	A

	学年末			
	達成状況	観点	評点	評定
知・技	71/100	A	71	4
思・判・表	70/100	A		
主体態度	72/100	A		

1 介護実習Ⅱの事前学習		
時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) 実習生個人票作成		
1	・自己紹介や介護実習の抱負を記述する。	思考・判断・表現 ・実習生の自己紹介や介護実習の抱負を考察し、根拠に基づき記述している。〔個人票の記述〕
「十分満足できる状況(A)」と判断するポイント 個人票の自己紹介や 介護過程の学習に関する抱負 を整理して記述している。		「努力を要する状況(C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、個人票に記述している実習生の自己紹介等の内容が十分でなかったり、適切な内容でない場合であり、項目を確認しながら個別に助言する。
2) 介護過程について		
2 3	・情報を分析し、事例のプランを作成する。	思考・判断・表現 ・具体的な課題、解決に向けて考察し、根拠に基づき作成している。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況(A)」と判断するポイント これまでの介護過程の学習を基に、事例の 情報を活用し適切なプランを立案 している		「努力を要する状況(C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、課題解決に向けて考察が深まっていない状況であり、ヒントを与えながら個別に支援する。
4	・事例をICIDH, ICFの構成要素に分類して記載する。	知識・技術 ・介護過程に関する知識と技術を身に付けている。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況(A)」と判断するポイント ・事例を ICFの構成要素に分類 し、また、事例について 情報の解釈・関連づけ・統合化及び課題 を適切に記述している。		「努力を要する状況(C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護過程の基本的な知識が十分でない場合であり、介護過程の基本的な知識について確認するよう助言する。
5 6	・事例から情報の解釈・関連づけ・統合化の内容及び課題について記述する。	知識・技術 ・情報の解釈・関連づけ・統合化について理解し、関連する技術を身に付けている。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況(A)」と判断するポイント ・情報の解釈・関連づけ・統合化、また、適切な課題を記述している。		「努力を要する状況(C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、情報が分析ができていない場合であり、ヒントを伝えて個別に支援する。

2 介護実習の留意点

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) 実習生としての態度・実習施設への交通・服装・身だしなみ・健康管理・事故等の対応・実習の欠席や警報発令時の対応		
7	・介護実習のきまりや実習生としての態度、介護実習での様々な状況への対応についてガイドブックにまとめる。	主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習の留意点に関心を持ち、介護実習での学びがよりよいものになるよう調整している。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て
介護実習のきまりや実習生としての態度、介護実習での様々な状況への対応の理解に 主体的 に取り組む、偏りなく 全体を網羅して 記述している。		このような状況は、介護実習のきまりや実習生としての態度、介護実習での様々な状況への対応についての理解が十分でない場合や、適切にまとめることができていない場合であり、個別にまとめ方の説明を行う。

3 介護実習記録

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) 目的と意義・心得・書き方と取り扱い		
8 9	・介護実習記録及び介護過程記録用紙の目的や書き方の留意点について理解したことを活用し、事例の内容を介護実習記録に記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習記録及び介護過程記録用紙に関心を持ち、それぞれの項目に適した記述に意欲的に取り組もうとしている。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て
介護実習記録及び介護過程記録用紙の 書き方の留意点 を理解し、 適切な表現 で記述している。		このような状況は、介護実習記録の記述方法の理解が十分でない場合や、適切にまとめることができていない場合であり、個別に説明する。

4 介護実習壮行会

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) 介護実習壮行会		
10	・介護実習の目標や抱負について記述する。	思考・判断・表現 ・介護実習の目標や抱負について考察し、根拠に基づき記述している。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て
介護実習の目標や抱負を「 介護過程の展開 」や「 課題解決 」等について 具体的に考察し、適切に表現 できている。		介護実習壮行会に向けて、適切な介護実習の目標や抱負が記述できていない場合であり、具体例を示しながら適切な表現を考えさせる。
11 12	・壮行会で学んだ内容を記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習壮行会で発表する内容の作成や壮行会のまとめを主体的に行おうとしている。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況（A）」と判断するポイント		「努力を要する状況（C）」と判断した生徒への手立て
壮行会の 準備 に主体的に取り組む、壮行会での学びについて、「 参考になった発表 」や「 気づいたこと 」等について記述している。		このような状況は、介護実習壮行会の準備が十分でない場合や、適切なまとめが記述できていない場合であり、振り返りを行うよう個別に支援する。

5 介護実習Ⅱの事後学習

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
(1) お礼状の作成		
13 ・ 14	・介護実習のお礼状を作成する。	思考・判断・表現 ・お礼状に介護実習での学びを考察し、根拠に基づき作成している。〔お礼状〕
「十分満足できる状況(A)」と判断するポイント お礼状に「 介護実習を通して身に着いたことや考えたこと 」「 指導を通して学んだこと 」等について 具体的なエピソードが適切な表現 で記載している。		「努力を要する状況(C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、お礼状作成の留意点が活かされていなかったり、お礼状の内容が具体的でなかったり丁寧に記述できていない場合であり、書式を確認し、学んだ内容を記述するよう説明する。
(2) 介護実習Ⅱの自己評価		
15 ・ 16	・介護実習Ⅱでの学びを振り返り、実習目標に対する達成度を自己評価して記述する。	思考・判断・表現 ・介護実習Ⅱの学びを振り返り、実習目標に対する達成度を考察し、根拠に基づき記述している。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況(A)」と判断するポイント 介護実習Ⅱの学びを振り返り、実習目標に対する達成度について 具体的な根拠に基づいて 自己評価を行い、適切に記述している。		「努力を要する状況(C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護実習Ⅱの実習目標に対する達成度を具体的な根拠に基づいて評価できていない場合であり、一つ一つの項目について実習記録を読み返しながらか確認するよう助言する。
(3) 介護実習Ⅱのまとめ		
16 18	・介護実習Ⅱにおいて学んだ内容を振り返り、項目に従ってまとめる。	知識・技術 ・介護実習Ⅱでの学びについて理解している。〔まとめ〕
「十分満足できる状況(A)」と判断するポイント 介護実習Ⅱの実習記録等からまとめを行い、 介護過程等の知識に基づいた根拠のある具体的な表現 で書いている。		「努力を要する状況(C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、適切なまとめが書けていない場合であり、介護実習の状況を確認しながら、根拠のあるまとめができるよう個別に支援する。
16 18	・介護実習Ⅱにおいて学んだ内容を振り返り、項目に従ってまとめる。	思考・判断・表現 ・介護実習Ⅱの学びを振り返り、項目に従って考察し、根拠に基づき記述している。〔まとめ〕
「十分満足できる状況(A)」と判断するポイント 介護実習Ⅱの実習記録等から学びを振り返り、項目に従って考察を深め、 具体的な課題と成果 を記述している。		「努力を要する状況(C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護実習Ⅱの学びを、それぞれの項目について実習記録を読み返しながらか確認するよう個別に支援する。
16 18	・介護実習Ⅱのまとめについて振り返って記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・介護実習Ⅱのまとめの作成について振り返りをしようとしている。〔ワークシート〕
「十分満足できる状況(A)」と判断するポイント 振り返りのワークシートに取り組み、適切に記述している。		「努力を要する状況(C)」と判断した生徒への手立て このような状況は、介護実習Ⅱのまとめの作成について振り返りが記述できていない場合であり、個別に支援する。

(4) 介護実習Ⅱ 報告書作成			
19 25	・介護実習での介護過程の展開からテーマを決め、利用者の情報収集・アセスメント・計画立案・実施・評価の一連の流れと考察を記述する。	知識・技術 ・介護過程の展開について理解している。〔報告書〕	
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て	
自分のテーマに従い、 介護過程の展開 を振り返り、 根拠に基づいて 記述している。		このような状況は、介護過程のまとめ方について資料を確認するよう個別に支援する。	
19 25	・介護過程の展開からテーマを決め、利用者の情報収集・アセスメント・計画立案・実施・評価の一連の流れと考察を記述する	思考・判断・表現 ・担当の利用者の状況や介護過程の展開について考察を深め、根拠に基づき記述している。〔報告書〕	
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て	
介護過程の展開から、利用者の情報収集・アセスメント・計画立案・実施・評価について、 介護実習で指導を受けた内容とテキスト等で調べた内容を関連づけて考察 し、適切に記述している。		このような状況は、報告書の記述内容が十分に考察できていない場合であり、介護過程の記録用紙や介護実習記録を読み返して内容を検討するよう支援する。	
19 25	・報告書作成について振り返って記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・報告書の作成について振り返りをしようとしている。〔ワークシート〕	
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て	
振り返りのワークシートに取り組み、適切に記述している。		このような状況は、報告書の作成について振り返りができていない場合であり、振り返りの内容が記述できるよう支援する。	
(4) 介護実習Ⅱ 報告会準備			
26 28	・介護実習Ⅱの報告会（介護過程検討会）の発表に向けて資料を作成する。	知識・技術 ・介護実習Ⅱの報告会（介護過程検討会）の資料に関する知識を身に付けている。〔スライド等〕	
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て	
報告内容について、 視覚的に分かりやすい資料 を作成している。		このような状況は、視覚的に分かりやすい資料ができていない場合であり、模造紙へのまとめやスライド作成の基本的な留意点を確認する。	
26 28	・介護実習Ⅱの報告会（介護過程検討会）の発表に向けて発表原稿を作成する。	思考・判断・表現 ・介護実習Ⅱ報告会（介護過程検討会）の発表原稿の内容を十分に考察し、根拠に基づき作成している。〔発表原稿〕	
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て	
介護過程の展開について、 報告書から発表内容を考察 し、適切に発表原稿を作成している。		このような状況は、発表原稿が十分にできていない場合であり、再度取り組むよう個別に支援する。	
26 28	・報告会準備について振り返って記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・報告会準備について振り返りをしようとしている。〔ワークシート〕	
「十分満足できる状況 (A)」と判断するポイント		「努力を要する状況 (C)」と判断した生徒への手立て	
振り返りのワークシートに取り組み、適切に記述している。		このような状況は、報告会の準備について振り返りができていない場合であり、個別に支援する。	

（５）介護実習報告会	
28 ・ 参加者が理解しやすいよう ・ 留意しながら発表する。	主体的に学習に取り組む態度 ・ 適切な態度で発表を行おうとしている。〔観察〕
「十分満足できる状況（Ａ）」と判断するポイント 発表原稿を活用し、適切な態度で発表を行っている。	「努力を要する状況（Ｃ）」と判断した生徒への手立て このような状況は、発表が丁寧に行えていない場合であり、振り返りを行い課題を明確にするよう支援する。
28 ・ グループの発表を聴き、介護 ・ 過程の展開について考察した 29 ことや学んだことを記述する。	主体的に学習に取り組む態度 ・ 他の生徒の報告を熱心に聞き、介護過程について考察した内容をまとめようとしている。〔ガイドブック〕
「十分満足できる状況（Ａ）」と判断するポイント 他の生徒の発表を聞き、発表の評価を適切に行い、分かったことや評価について 具体的な内容 を記述している。	「努力を要する状況（Ｃ）」と判断した生徒への手立て このような状況は、他の生徒の発表に関心を持ってなかったり、適切な記述ができていない場合であり、振り返りを行い、コメントが記述できるよう支援する。
（５）報告会のまとめ	
30 ・ 参加者の意見から介護過程の ・ 展開について考察したことを 31 記述する。	思考・判断・表現 ・ 参加者の意見を聞き、介護過程について考察し、根拠に基づき記述している。〔ワークシート〕
「十分満足できる状況（Ａ）」と判断するポイント 参加者の意見を適切にまとめ、その内容から介護実習及び介護実習報告会の 成果と課題を考察 し、記述している。	「努力を要する状況（Ｃ）」と判断した生徒への手立て このような状況は、参加者の意見を適切に活用できていなかったり、それを基に考察ができていない場合であり、コメントの内容を活用できるよう助言する。

※評価について

学期末に各観点の到達度を 100 点満点で示す。

基準 70 以上 100 以下… A 35 以上 70 未満… B 0 以上 35 未満… C

評定 80 以上 100 以下… 5 60 以上 80 未満… 4 40 以上 60 未満… 3 30 以上 40 未満… 2 30 未満… 1

1 学期

	1(1)	1(2)	2(1)	3(1)	4(1)	学期末達成状況	学期末観点	評点	評定
	実習生個人票	介護過程	実習生としての態度等	介護実習記録の目的と意義	介護実習壮行会				
知・技		62/100				62/100	B	64	4
思・判・表	20/30	20/40			18/30	58/100	B		
主体態度			33/50	40/50		73/100	A		

2 学期

	4(1)	5(1)	5(2)	5(3)	6(4)	学期末達成状況	学期末観点	評点	評定
	介護実習壮行会	お礼状の作成	自己評価	介護実習まとめ	報告書作成				
知・技				28/50	40/50	68/100	B	72	4
思・判・表		18/20	14/20	26/30	22/30	80/100	A		
主体態度	22/30			27/40	25/40	74/100	A		

3 学期

	6(4)	5(5)	5(5)	学期末達成状況	学期末観点	評点	評定
	報告会準備	介護実習報告会	報告会のまとめ				
知・技	24/40	22/30	30/40	76/100	A	69	4
思・判・表	18/30	20/40	30/40	68/100	B		
主体態度	15/30	22/40	26/40	63/100	B		

学年末

	1 学期		2 学期		3 学期		学年末	
	達成状況	観点	達成状況	観点	達成状況	観点	達成状況	観点
知・技	62/100	B	68/100	B	76/100	A	69/100	B
思・判・表	58/100	B	80/100	A	68/100	B	69/100	B
主体態度	73/100	A	74/100	A	63/100	B	70/100	A

	学年末			
	達成状況	観点	評点	評定
知・技	69/100	B	69	4
思・判・表	69/100	B		
主体態度	70/100	A		